

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第21回放送の概要 (2010年7月31日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬 悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

1. オープニング

熱中症のため7月1日現在で全国で200人以上の方が亡くなっている。特に高齢者、子供たちが多い。子供たちが熱中症になる理由として遊びに夢中になり水分補給を忘れるとか、大人はこまめに水分補給をすることが出来るが子供はがぶ飲みをするとかやり方が適切でないことが多い。熱中症の症状としては軽いほうからめまいや失神したりする「熱失神」、痛みを伴った筋肉が痙攣する「熱けいれん」、たくさん汗をかき、めまい、頭痛、吐き気、倦怠感を伴う「熱疲労」そして最も重篤な汗はかかず、皮膚は赤く熱っぽく、体温は39度を越え、意識障害、錯乱、昏睡、全身けいれんなどを伴う「熱射病」がある。熱中症にかかる場合正しい知識を持っていないことが多いので、これからまだ1ヶ月は厳しい暑さが続くので十分注意しましょう。

2. ゲストコーナー：大阪教育大学准教授 手取義宏さん (70 陽会)

(1) 教育大学での研究について

アコちゃんと高校が同級生で、卒業後大阪教育大に進み、大阪市立大学の博士課程に進学後、現在大阪教育大学で教鞭をとっておられる。専門は社会科教育学で小中高の社会科の授業をどのように作るのか、どのように教えるのかの研究をしている。学校の先生になりたいという学生に社会科の授業の仕方、進め方を教えている。研究として力を入れている分野は、子供たちとメディアをどのように関わらせていくのかということ、子供たちが社会とどのように関わっていくのかということ、学校の社会科授業の中で機会を作っていくことである。メディア及び社会と関わるという接点で学校の先生と取り組んできた事例として、中学校の社会科の授業で地域のミニコミ誌を作ろうという企画をした。子供たちが記事をパソコンで作って、印刷したものを地域の人たちに配るという実践をした。通常は学校内で終わってしまうことを地域にまで拡大したもの。はじめは何を書いているかわからなかったが、子供たちが地域のことを取り上げていくと地域からのレスポンスが生まれ、子供たちはそれがうれしくなり手応えを感じていた。自分たちが地域の問題を行政に届けて行きたいところまで発展していった。子供たちは自身の目線で踏切が危ないとか、地域の人たちから手紙でこの道が車が多く道が狭くて何とかならないかといったところから地域の問題点、課題をみつけてきた。面白かったのは埋め立て地の大きな道沿いに古い堤防の頭が出ており道の半分を占拠していることを子供たちが取り上げ、それを行政に掛けあった。堤防は港湾、道路は土木の管轄という隙間にあり解決できなかった問題を、行政が本腰を入れて取り組み、ガードレールを作るという対策をとってくれた。子供たちが地域の声を吸い上げ、アクションを起こしたことにより町が変わっていった。皆のためになったという成果が得られた。活動期間としては1年間かけている。はじめはパソコンの使い方、カ

メラの使い方などを学び、インタビューで情報を集めたりした。兵庫県では1週間のトライアルウィークの中で例えばお父さんの会社社会見学といった取り組みがある。大阪の場合週一回の授業を積み重ねて新聞を何号も発行してきた。指示待ちマンではなく十分な期間が与えられることにより自分たちで考え探っていくことが出来る。これは日本の教育で欠けている部分に取り組んでいることにもなる。子供たちは大人の決めた枠の範囲内で考えてしまうといった制約をこの取り組みは取り払うことにつながり、このような経験は、将来政治に関心をもったり目的を持った大学選び、仕事選びに繋がるように思う。ゆとり教育では総合的な学習の時間が始まり、これはその中の取り組みの一つであった。ミニコミ誌の発行はほぼ月1回の頻度でサイズはB4の裏表である。子供達もこのような活動を通じて自信を持ったのではないか。

(2) 会下山プレーパークの代表としてボランティア活動について、

会下山公園は神港高校の少し山手で市営地下鉄上沢駅から湊川公園駅近くまでまたがる大きな公園(12000坪)で桜が有名である。1336年の湊川合戦の際楠木正成がここに本陣を構え700余りの部下と共に数万の足利軍と戦ったとされている。頂上付近に楠木正成の「楠公湊川陣ノ遺跡碑」がある。

プレーパークは冒険遊び場といわれ、デンマークで最初に取り組まれた。遊具のたくさん備わった公園より廃材が転がり大きな石が積まれているような公園の方が、子供たちにとっては遊びの幅が広がり自由に遊べるのではないかと考えた建築家が、冒険遊び場を作りヨーロッパで広がっていった。日本には1970年代にはいつてきた。東京世田谷区ではじまりその後国内に拡がり、現在250箇所程度になっている。毎日プレーパークを開催しているところもあるが、会下山は月1回第4土曜日に開催している。専任のプレーリーダーを置いているところもあるが、会下山はボランティアで学生や若い人がプレーリーダーを努めている。

7年前に世田谷のプレーパークを見たとき衝撃を受けた。地域の大人達が子供達のために手作りの遊具を作って遊び場を提供していること、子供たちがワイルドにやんちゃに豪快な遊びを展開している。それらを支える行政を含む大人たちの関わりがすごいと思った。外で遊ぶ場所が少ないこの時代に、自分の住んでいるところでもプレーパークが欲しいと思った。具体化はすぐ早く出来た。アコちゃんも立ち上げの時から関わっていた。手取さんは熱い想いがびんびん伝わってくるトークで、行動力がすごかった。普通なら出来ないと思うような短期間で県、市の協力を得て1回目を開催することが出来た。はじめに相談したのは兵庫県の青少年本部で、もともと兵庫県は子どもの冒険広場というプレーパークのようなものを県を挙げて取り組んでおり、立ち上げの支援もしてくれた。また県神戸市の中部建設事務所を紹介してもらえ、相談に行くと会下山公園がよいと言われ、元々ボランティアが桜の木を守る取り組みをしていたのでそれと重ね合わせたらどうかとの提案をもらった。これはイベントを開催する4ヶ月前のことで半年もかからずに開催することが出来た。最初に声をかけたのは同級生で、70陽会の掲示板に手伝って欲しいと書き込むとアコちゃん他今の中心メンバーが名乗りを上げてくれた。武陽会の人だけでなく周りの人がすごく支援してくれた。地元のふれあい町づくりの人たちのところに話を持っていった時、辻さん(武陽会)がおられ協力したらいいのではないかと伝えてくれた。その後辻さんはスタッフの一員として関わってくれている。

立ち上げたときは子供達は与えられた遊びしか出来なかった。遊具に頼る遊び、大人が考えたルールに乗って遊ぶことから、今はダンボール一枚でいくらかでも遊べるようになってきている。ロープが1本あれば色々な遊具を作って自分たち合うような遊び場を作れるようになってきた。先週土曜日に初めてプレーパーク見た放送スタッフの感想としては、5人くらいが乗れる大きなハンモックが高いところに吊るされており、子供たちが乗って遊んでいる姿を見ると落ちたらどうするのという心配が先に立った。しかしほったらかしではなくプレーリーダー、保護者、サポーターが遠目で見ており何か起きたときはすぐに対処できるようになっているとのこと。初回のイベントは親子合わせて400人以上集まったが最近では全部で50人来るかどうかという状況である。来ている子供たちは兵庫区北部の

小学校である。子供達にはもっと来てもらいたいし、若い人もシルバーもサポーターとして参加してほしい。今の子供たちがサポーターやプレーリーダーになってくれることを期待したい。8月は東京にある冒険遊び場協会が全国プレーパークのネットワークを作っているが、協会の声かけで全国250箇所のプレーパークが8月29日に一斉に開催することになっている。会下山は8月28日（土）、29日（日）の両日、夏休みの最後に開催することになっている。

3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

今日と明日の2日間鉄人28号がスペシャルライトアップをしている。屋台もありアニメの声優も来ている。22時までビアガーデンがある。明日は沖縄から同時配信されるエイサー踊りのイベントがある。六甲山牧場では口蹄疫予防のため中止されていた羊の放牧が再開されている。シティループバスの20周年記念ということで8月31日まで1日乗車券が割引販売されている。8月末の会下山プレーパークに是非行ってください。手取さんは東山町の湊川で蛍が見れるようにしたいと考えておられる。

4. 来月のゲスト

兵庫高校の現役1年生に来ていただいて授業内容などについて話を伺います。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで : buyou49@nifmail.jp